

令和6年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	具体的取組	評価の観点	評価	1年	2年	3年	4年	5年	6年	アンケート結果		数値化	評価者	昨年度
										人数	%	A+B		
よく考える子 「すすんで学び、表現・行動する」	様々な活動で、児童が 創意工夫しながら主体的に活動する場面を多く設定する。	・学級の係や給食当番の仕事・掃除、たてわり活動や委員会活動等で、自分で考えたり工夫したりしながら活動することができた。		創意工夫						26				
			A	2	1	2	6	2	13	50%	96%	児童	96%	
			B	2	4	3	0	3	12	46%				
			C	0	0	1	0	0	1	4%				
			D	0	0	0	0	0	0	0%				
		・お子さんは自分で考えたり工夫したりしながら活動しようとしている。(例：公開日での児童の様子等)		創意工夫						25				
			A	2	2	2	1	3	10	40%	96%	保護者	92%	
			B	2	3	3	5	1	14	56%				
			C	0	1	0	0	0	1	4%				
			D	0	0	0	0	0	0	0%				
		・学級の係や給食当番の仕事・掃除、縦割り活動や委員会活動等で、児童が創意工夫しながら主体的に活動する場面を多く設定した。		創意工夫						10				
			A							7	70%	100%	教職員	100%
	B		3							30%				
	C		0							0%				
	D		0							0%				
	問いを持ちたり自分の考えと比べたりしながら聴き、積極的に反応・表現・提案できるような場の設定と手立てを工夫する。(ICT活用、多様な他者との交流)	・問いを持ちたり自分の考えと比べたりしながら聴くことができた。		聴く						26				
			A	4	2	4	2	4	16	62%	92%	児童	100%	
			B	0	3	0	4	1	8	31%				
			C	0	0	1	0	0	1	4%				
			D	0	0	1	0	0	1	4%				
		・お子さんは人の話をしっかりと聴く力が育っている。(例：発表会、集会、授業での発表等)		聴く						25				
			A	3	3	2	2	3	13	52%	100%	保護者	96%	
			B	1	3	3	4	1	12	48%				
			C	0	0	0	0	0	0	0%				
			D	0	0	0	0	0	0	0%				
＜聴く＞ ・問いを持ちたり自分の考えと比べたりしながら聴く場を十分に設定して指導した。			聴く						8					
		A							5	63%	100%	教職員	100%	
		B							3	38%				
	C	0							0%					
	D	0							0%					
・児童は、人の話をよく聴く力が育っている。		聴く						15						
	A							13	87%	100%	地域	100%		
	B							2	13%					
	C							0	0%					
	D							0	0%					
問いを持ちたり自分の考えと比べたりしながら聴き、積極的に反応・表現・提案できるような場の設定と手立てを工夫する。(ICT活用、多様な他者との交流)	すすんで自分の考えを発表したり提案したりすることができた。		考えの発表						26					
		A	3	4	2	4	4	17	65%	96%	児童	92% ※発表のみ		
		B	1	1	3	2	1	8	31%					
		C	0	0	1	0	0	1	4%					
		D	0	0	0	0	0	0	0%					
	・お子さんは人前でしっかりと話す力が育っている(例：発表会、集会、授業での発表等)		考えの発表						25					
		A	2	3	4	2	4	15	60%	96%	保護者	92%		
		B	2	3	1	3	0	9	36%					
		C	0	0	0	1	0	1	4%					
		D	0	0	0	0	0	0	0%					
	＜話す＞ ・すすんで自分の考えを発表したり提案したりできる場を十分に設定して指導した。		考えの発表						8					
		A							6	75%	100%	教職員	100% ※発表のみ	
		B							2	25%				
		C							0	0%				
		D							0	0%				
・児童は、人の話の内容に対して自分なりに応答する力が育っている。		考えの発表						15						
	A							13	87%	100%	地域	93%		
	B							2	13%					
	C							0	0%					
	D							0	0%					

基礎・基本の定着を図るとともに、振り返りを重ねることを通して、活用力の向上を図る。	・学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を振り返り、次の学習につなげることができた。	基礎基本・活用力						26			
		A	3	3	1	3	4	14	54%	92%	児童
		B	1	1	4	3	1	10	38%		
		C	0	1	1	0	0	2	8%		
		D	0	0	0	0	0	0	0%		
	・お子さんは学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を振り返ることができている。（例：ノート、ワークシート等）	基礎基本・活用力						25			
		A	1	2	3	1	1	8	32%	72%	保護者
		B	2	3	1	2	2	10	40%		
		C	1	1	1	2	0	5	20%		
		D	0	0	0	1	1	2	8%		
	・学習した内容について、振り返る機会を設け、次の学習につなげることができた。	基礎基本・活用力						8			
		A						5	63%	88%	教職員
		B						2	25%		
		C						0	0%		
		D						1	13%		

96%

80%

100%

【結果分析】

①「創意工夫しながら主体的に活動」することに関する項目では、児童、保護者、教職員とも目標値を超え高評価をしている。日頃の授業や係活動、また高学年は特にリーダーとしてたてわり班での体育大会の応援練習、1学期よりも児童主体となった給食当番、常々の掃除等で体験を通して、先を見通して考え行動したり工夫したりすることがさらにできるようになってきたようだ。低学年は、特に音楽会に向けた練習では演奏の工夫等を考えることができていた。このような校内での積み重ねが、11月の校外学習においてのPR活動時の動きの柔軟さに表れていると考える。

②「聴く」ことに関する項目でも、児童、保護者、教職員、地域とも目標値を超え高評価をしている。これは、日頃の授業や全体指導の場において、話を聞く姿勢をしっかりと取らせてから始めるといった習慣づけや、一昨年度からの全校での表現の時間「熊っ子タイム」で、縦割り班やランダムに組んだグループでの交流を通し、互いにほどよい緊張感をもって聴く中で培われてきたものと考ええる。また、音楽会に向けての全校練習で、それぞれの音を聴き比べる経験を積んできたことや、音楽がさらによくなるように考え、それをみんなに伝える経験をしてきたことも貴重だったと考える。しかし、児童の中には、自分に厳しく評価していると見られる子もいる。全体の活動等でしっかり取り組んでいるように見えたが、個人的にはまだまだ高いレベルに意識をおいている児童がいるようである。

③「話す」ことに関する項目でも、児童、保護者、教職員、地域とも目標値を超え高評価をしている。今年度は高学年において、児童会で「企画書」を考え、校長や事務職員に自分達の要望を伝えた。そこに異議を唱えられた場合には、さらに改案を練り再提案するという活動を行ってきた。また、縦割り遊びについても「企画書」を作成し、各縦割り班担当の教員に提案し許可を得るという活動を行ってきた。この活動により、児童がやりたいこと、実現したいことの意義を深く考えることができた。また、生活科において2年生がおもちゃを作製し、1年生を招待して遊ぶという企画は「自分のおもちゃの遊び方の工夫点を1年生に伝えて楽しんでもらいたい」という熱い想いから発進されたものといえる。

④「基礎・基本の定着を図るとともに、振り返りを重ねることを通して、活用力の向上を図る」項目では、保護者の評価が目標値に届かなかった。これは、振り返りを書いたノート保護者の目に触れることがなかったと考えられる。

【対応策】

①今後も、様々な場面で、小さなことでも自分で考えて行動したり、工夫点が見られたりしたら褒めて、意識づけを図っていく。

②個人的に高いレベルに意識をおいている児童には、まず今の状況で十分考えられていることを教員が認めていることを伝え、自己肯定感をもたせることが重要だと考える。今後とも個別指導や今後の全体指導の授業等の中で、さらに考えたり聞いたりして深まる授業のおもしろさを体験させたり、児童のよさを認め励まし、より積極的に授業や活動に向かう姿勢をつくってきたい。

③今後も「企画書」での提案活動を続けたり、各種行事や熊っ子タイム等で「表現する」ことの大切さや喜びを味わわせたりしながら、主体であることのよさを実感させ、より児童の主体性が発揮された学校活動、授業等となるようにしていきたい。

④授業内容のポイントに的を絞った振り返りを行う等して、これからも、毎時間の授業や、単元ごとの振り返りを継続し、次の学習につなげていきたい。また、単元終了ごとに家にノートを持ち帰って保護者に見てもらおうようにすることも必要である。

令和6年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	具体的取組	評価の観点	評価	1年	2年	3年	4年	5年	6年	アンケート結果		数値化	評価者	昨年度
				人数	%	A+B								
人も自分も大切に する子 「自他の笑顔につな がる行動をする」	身近な人とのつながり や新しい出会いの中 で、自分を大切にし相 手を大切にする集団づ くりを努める。(ふるさと 学習等)	・悪口や仲間外れがなく、いじめのない学校だと思 う。		いじめ防止					26				100%	児童
			A	4	4	6	5	4	23	88%	100%			
			B	0	1	0	1	1	3	12%				
			C	0	0	0	0	0	0	0%				
			D	0	0	0	0	0	0	0%				
		・悪口や仲間外れなど、いじめのない学校だと思 う。		いじめ防止					25				92%	保護者
			A	4	4	5	2	2	17	68%	92%			
			B	0	2	0	3	1	6	24%				
			C	0	0	0	1	1	2	8%				
			D	0	0	0	0	0	0	0%				
		・いじめを早期発見できるように、定期的にアン ケートや面談を実施した。		いじめ防止					8				100%	教職員
			A						7	88%	100%			
			B						1	13%				
			C						0	0%				
			D						0	0%				
		・児童は、人を傷つけるような言動を行わず、楽 しく学校生活を送っている。		いじめ防止					15				100%	地域
	A							14	93%	100%				
	B							1	7%					
	C							0	0%					
	D							0	0%					
	人権教育の日常化を図 り、安心して楽しく通え る学校づくりに努める。 (国際理解、多様性)	・毎日学校へ行くのが楽しい。		不登校未然防止					26				100%	児童
			A	3	5	4	5	2	19	73%	100%			
			B	1	0	2	1	3	7	27%				
			C	0	0	0	0	0	0	0%				
			D	0	0	0	0	0	0	0%				
		・お子さんは学校へ行くのを喜んでおり、不登校 の傾向は感じない。		不登校未然防止					25				100%	保護者
			A	4	5	3	4	3	19	76%	100%			
			B	0	1	2	2	1	6	24%				
			C	0	0	0	0	0	0	0%				
			D	0	0	0	0	0	0	0%				
		・人権教育の日常化(国際理解、多様性理解を 含む)を図り、誰もが安心して楽しく過ごせる環境 をつくり、不登校を未然防止することに努めた。		不登校未然防止					9				100%	教職員
			A						8	89%	100%			
			B						1	11%				
			C						0	0%				
	D							0	0%					
	すすんであいさつや受 けこたえができるよう、 児童会が主体となって 取り組む。	・すすんであいさつをすることができた。		あいさつ					26				100%	児童
			A	3	5	4	4	5	21	81%	100%			
			B	1	0	2	2	0	5	19%				
			C	0	0	0	0	0	0	0%				
			D	0	0	0	0	0	0	0%				
・相手の言動に対して受けこたえができた。			受けこたえ					26				100%	児童	
		A	3	4	3	3	3	16	62%	100%				
		B	1	1	3	3	2	10	38%					
		C	0	0	0	0	0	0	0%					
		D	0	0	0	0	0	0	0%					
・家族とともに、家での朝夕の挨拶や食事の挨拶 に意識して取り組んだ。			あいさつ					25				88%	保護者	
		A	3	4	4	4	3	18	72%	88%				
		B	0	1	1	1	1	4	16%					
		C	1	1	0	1	0	3	12%					
		D	0	0	0	0	0	0	0%					
・いつでもどこでも誰にでも、自分からあいさつや 受けこたえができるように指導を工夫した。			あいさつ・受けこたえ					9				100%	教職員	
		A						5	56%	100%				
		B						4	44%					
	C						0	0%						
	D						0	0%						
児童は、登下校時にすすんであいさつができて いる。		あいさつ					15				93%	地域		
	A						9	60%	93%					
	B						5	33%						
	C						0	0%						
	D						1	7%						
			スマートルール					26						
		A	3	4	3	4	2	16	62%					

※あいさつのみ

スマートルールについて、児童の取組が定着につながるよう、学校と家庭が連携する。	・家や学校で決めたスマートルールを守っている。	B	1	0	3	1	2	7	27%	88%	児童	100%	
		C	0	1	0	0	1	2	8%				
		D	0	0	0	1	0	1	4%				
		・家や学校で決めたスマートルールについて、家族と振り返りながら守る意識を高めることができる。	スマートルール							25			
	A		2	3	2	1	2	10	40%	84%	保護者	80%	
	B		2	1	3	3	2	11	44%				
	C		0	2	0	2	0	4	16%				
	D		0	0	0	0	0	0	0%				
	・家や学校で決めたスマートルールの目標について、守る意識を高める取り組みを工夫した。	スマートルール							8				
		A							4	50%	88%	教職員	100%
		B							3	38%			
		C							1	13%			
		D							0	0%			

【結果分析】

①児童に関しては昨年度に引き続き、いじめがない学校に関する評価が100%である。児童は、仲間との意見の行き違い等はあるものの、自力で解決したりその後の対応が功を奏したりして、いやな気持ちが続いているという訴えはない。普段は、優しい声かけや互いを認め合う様子が見られ、個々が落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っており、児童それぞれに「いじめはダメ」という意識が見られる。保護者が昨年度100%から92%になっている。

②児童、保護者とも、学校生活は楽しい(楽しく過ごしている)の評価が100%である。毎日の活動を振り返ることができる校長先生手作りのスライドショーからはじまる一日の学習、月々の考えを深めることができる集会和熊っ子・熊っ人タイム、多くの学校行事や児童会主催の行事など、安心して楽しく通える学校作りができていていると考える。

③あいさつに関しては昨年度と同様の評価となった。児童に関しては、「相手の言動に対して受け答えができた」が100%であった。これは、校内外で受け答えをする機会が多く設定され、その中でしっかり活動できたことを自分なりに評価できたと考える。地域での評価が昨年度と同様93%であった。

④スマートルールの達成については、児童が100%から88%になっている。保護者も84%で昨年度よりは微増であった。児童の結果に関しては、ノーデジタルデーとスマートルールとの混同も原因の一つと思われる。

【対応策】

①保護者の結果が下がったことに関しては、何かあったときには保護者が受け止めてくださっている結果と思い、大変ありがたく思う。今のところ、いじめのような行為が続いているというような訴えは児童からはないが、気がかりなことがある場合は、ぜひ気軽に学校に伝えてほしい。

③あいさつに関しては、家での朝夕のあいさつや食事時のあいさつをご家庭にも呼びかけるような機会を作るとよかった。3学期はあいさつ週間を作って、意識して取り組みたい。地域の皆様におかれましては、温かい見守りとあいさつをありがとうございます。これからも、あいさつができる子の育成に努めていきたい。

④スマートルールの達成について、児童の結果が下がったことについては、ノーメディアデーとスマートルールが混同していると思われるので、再度スマートルールを児童と確認し、意識が低い部分を分析して対応できるよう考えていきたい。また、冬休みは、家庭としっかりコミュニケーションをとって自分の家のスマートルールを作るような形にしたので、その結果を見て対策を考えたい。

令和6年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	具体的取組	評価の観点	評価	1年	2年	3年	4年	5年	6年	アンケート結果		数値化	評価者	昨年度		
										人数	%	A+B				
チャレンジする子「可能性を広げる行動をする」	学期や行事などの機会ごとに設定した自分の目標達成に向けて、具体的な行動をイメージしながら振り返り、努力を続ける習慣をつける。	・具体的な行動をイメージしながら振り返り、目標に向かって努力を続けることができた。		目標設定・努力						26				96%	児童	100%
			A	4	5	2	5	2	18	69%						
			B	0	0	3	1	3	7	27%						
			C	0	0	1	0	0	1	4%						
			D	0	0	0	0	0	0	0%						
		・お子さんは自分が決めた目標に向かって努力を続けることができていた。		目標設定・努力						25				100%	保護者	80%
			A	3	3	1	1	2	10	40%						
			B	1	3	4	5	2	15	60%						
			C	0	0	0	0	0	0	0%						
			D	0	0	0	0	0	0	0%						
		・学期や行事などの機会ごとに自分の目標を設定し、具体的な行動をイメージしながら振り返り、目標に向かって努力を続ける習慣をつけることができた。		目標設定・努力						9				100%	教職員	100%
			A							9	100%					
			B							0	0%					
			C							0	0%					
			D							0	0%					
	児童の挑戦を支える場の設定を工夫する。	・自分のやってみたいこと(苦手なことも含む)に、くり返し挑戦することができた。		挑戦を支える						26				96%	児童	100%
			A	4	5	2	5	2	18	69%						
			B	0	0	3	1	3	7	27%						
			C	0	0	1	0	0	1	4%						
			D	0	0	0	0	0	0	0%						
		・お子さんは自分のやってみたいこと(苦手なことも含む)に、挑戦することができていた。		挑戦を支える						25				96%	保護者	80%
			A	1	3	3	1	2	10	40%						
			B	3	3	2	4	2	14	56%						
			C	0	0	0	1	0	1	4%						
			D	0	0	0	0	0	0	0%						
		児童の挑戦を支える場の設定を工夫することができた。		挑戦を支える						9				100%	教職員	100%
			A							6	67%					
			B							3	33%					
			C							0	0%					
			D							0	0%					
	好きな気持ちを高めたり、関心の目を広げたりする働きかけを行う。	・好きな気持ちを高めたり、関心の目を広げたりすることができた。		可能性を広げる						26				100%	児童	
			A	4	3	4	3	3	17	65%						
			B	0	2	2	3	2	9	35%						
			C	0	0	0	0	0	0	0%						
			D	0	0	0	0	0	0	0%						
		・お子さんは、学校内外の活動において、好きな気持ちを高めたり、関心の目を広げたりする働きかけができていた。		可能性を広げる						25				100%	保護者	
			A	3	4	4	3	4	18	72%						
			B	1	2	1	3	0	7	28%						
			C	0	0	0	0	0	0	0%						
			D	0	0	0	0	0	0	0%						
		・児童の興味や関心を引き出し、好きな気持ちを高めたり、関心の目を広げたりする働きかけを行った。		可能性を広げる						10				100%	教職員	
			A							5	50%					
			B							5	50%					
			C							0	0%					
			D							0	0%					
読書活動の工夫により、時間を保障し、読解力の向上を図る。	・学校や家で、たくさん本を読むことができた。		読書						26				73%	児童	76%	
		A	3	4	1	2	1	11	42%							
		B	1	1	2	2	2	8	31%							
		C	0	0	2	2	1	5	19%							
		D	0	0	1	0	1	2	8%							
	・学校の取組をきっかけに、親子で一緒に本を読んだり、読んだ本について話したりすることができた。		読書						25				96%	保護者	80%	
		A	2	4	3	1	3	13	52%							
		B	2	2	1	5	1	11	44%							
		C	0	0	1	0	0	1	4%							
		D	0	0	0	0	0	0	0%							
	・朝読書、週末読書、読み聞かせ、親子読書等を通じて読書活動を推進することができた。		読書						8				100%	教職員	100%	
		A							6	75%						
		B							2	25%						
		C							0	0%						
		D							0	0%						

【結果分析】 ①「目標設定・振り返り」について、児童は96%。保護者・教職員とも100%であった。校長がリーダーとなり続けてきた行事ごとの目標設定・振り返りの活動の成果が確実に現れてきている。また、それらがすべて掲示されることで他の子の振り返りにも触れることができ、新たな気づきの場となっている。継続してきたことで保護者の目にもとまり、保護者の数値がアップしたと考えられる。 ②「挑戦の場」について、児童・保護者は96%。教職員は100%であった。4月から繰り返しめざす児童像の3つをもとに目標を立てることで児童に普段からチャレンジの意識があったと思われる。教師も児童を後押しする声掛けができた。保護者が100%にあがった理由は、①と同様と思われる。 ③「関心の目をひろげる」について、児童・教職員・保護者すべて100%であった。今年度の様々な活動がプラスに働いたと考えられる。 ④「読書」について、児童は73%と目標値を下回っている。保護者は71%→80%→96%と評価が確実に上昇してきている。朝読書や読み聞かせは、一定の効果を上げている。高学年の担任も共に朝読書をしていることは一定の効果があったと考える。今年度は2回親子読書に取り組んだことが数値の向上につながったのではないだろうか。
【対応策】 ①行事等の振り返りはめざす児童像の3本柱を基本に続けていく。その際に、振り返りがしやすいよう学級内でより具体的な内容で取り組めるように指導する。 ②教師のプラスの声掛けは大事なので、継続していく。 ③地域での活動が多いことがプラスにはなっているが、量のバランスは必要。 ④学校内で読書に集中できる心地よい時間を設定する。高学年の朝読書（○10分間は席を立たない○しゃべらない○教師も読む）は継続。 ・「たくさん」の文言は判断が難しいので、来年度文言を考える必要がある。

若狭町立熊川小学校

昨年度

【結果分析】 ①昨年度、C評価が1人あり93%であった【環境】を含め、全項目において、A+Bの数値が100%である。 ②【安全】(学校の行っている安全教育や安全対策は、効果を発揮していると感じる。)について、保護者のA数値は大きく下がった。(80%→68%)例年以上に多かった校区内での熊情報をはじめ、統廃合に伴う登下校方法の変更等、環境の変化に伴う安全面の心配や不安が影響していると考えられる。 ③【地域、保護者と共にする学習活動や地域との体験活動の推進】について、A数値が100%もしくは96%と高く評価された。保護者、教職員、地域ともに高評価しており、学校教育が理解されていると判断できる。 ④学校だより、学校ブログや学級だより等の各種おたよりを通じた発信により、児童の学校生活の様子や学校、学級の様子がよく伝わったと各々が評価している。公式LINEを含め、多様なツールから、丁寧かつ時期を逃さない発信が効果を上げ、上記の学校教育の理解につながっていると考えられる。 昨年度の対応策として掲げた、最終年度を見据えた「ふるさと教育」を中心とした学校教育の推進や保護者・地域との対話の重視が教職員に理解され、全員で取り組んできた結果が表れたと考える。
【対応策】 ②上中小学校となり、校区の広がりやバス通の導入、見守り隊の変更、自転車使用可能範囲の変化、児童の交流の広がりからくる移動時の安全確保、児童数が増えることにより危険事項や見落とし・見逃しの増加など、多種多様な安全面の懸念事項が増す。慎重な準備や指導、広報(情報共有)が必要であることを自覚しなければならない。 ③④については、上中小学校のスクールプランや管理職の経営方針と関わってくるが、「昨年までは…」という意識をなくし、まずは学校(教職員)から熊川小でもない、瓜生小でもない、新制「上中小学校」はこんなことを目指す学校だということを繰り返し丁寧に広報(情報共有)し、学校、保護者、地域の新たな信頼関係を構築していく心構えを全職員で共通理解し、スタートできるとよい。